

田舎老譜



特別  
^13  
3633  
38



特

門 へ 13  
號 3623  
卷 (38)

田舎談義の末場  
 予去年の秋、いづれ市  
 か、一雨、此を避く。鄙  
 村、みんと。刀祿乃、河  
 北系  
 志、多、一、歳、朋、友、の、あ、り、に  
 心、き、し、多、中、産、と、い、く、此

昭和二十二年六月八日  
 宮川曼魚氏寄贈

出<sup>イダ</sup>る<sup>ニ</sup>に。秋<sup>シウ</sup>聲<sup>セ</sup>ノ白<sup>ハク</sup>鳥<sup>ト</sup>と發<sup>シ</sup>然<sup>ワ</sup>。  
 好<sup>シウ</sup>色<sup>ニ</sup>陽<sup>ハ</sup>と影<sup>カ</sup>。目<sup>メ</sup>ふ<sup>ク</sup>ん<sup>ク</sup>る<sup>ク</sup>。  
 景<sup>ケ</sup>物<sup>イ</sup>皆<sup>ブ</sup>風<sup>フ</sup>流<sup>ウ</sup>と草<sup>ソ</sup>ノ<sup>ビ</sup>。  
 わ<sup>ワ</sup>ま<sup>マ</sup>く<sup>ク</sup>田<sup>テン</sup>家<sup>カ</sup>の<sup>ノ</sup>影<sup>ノ</sup>也<sup>ヤ</sup>。  
 尾<sup>ビ</sup>を<sup>ヲ</sup>此<sup>ココ</sup>處<sup>ト</sup>に<sup>ニ</sup>留<sup>ル</sup>る<sup>ク</sup>。  
 身<sup>ミ</sup>を<sup>ヲ</sup>此<sup>ココ</sup>處<sup>ト</sup>に<sup>ニ</sup>留<sup>ル</sup>る<sup>ク</sup>。  
 此<sup>ココ</sup>處<sup>ト</sup>に<sup>ニ</sup>留<sup>ル</sup>る<sup>ク</sup>。

序一

往<sup>ユキ</sup>往<sup>ユク</sup>の<sup>ノ</sup>草<sup>サウ</sup>加<sup>カ</sup>れ<sup>ル</sup>。  
 浮<sup>エ</sup>る<sup>ク</sup>酒<sup>シウ</sup>味<sup>ミ</sup>及<sup>ツ</sup>柱<sup>ツ</sup>。  
 一<sup>イチ</sup>椀<sup>ワン</sup>の<sup>ノ</sup>酒<sup>シウ</sup>を<sup>ヲ</sup>求<sup>モト</sup>め<sup>ル</sup>。  
 申<sup>ウチ</sup>る<sup>ク</sup>思<sup>オモ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>。  
 床<sup>ヤ</sup>枕<sup>クシ</sup>の<sup>ノ</sup>味<sup>ミ</sup>。  
 起<sup>キ</sup>る<sup>ク</sup>。

母は母一人に氣あり。氣  
の曰客好く戯作とあり。  
こゝをみる。儉父嘗て述  
多敷一冊子とあり。一度  
閑時を暇に釣匙とあり。  
縁忽ち店り。とあり。一。

賈<sup>カ</sup>大夫が妻といふ。し  
一<sup>シヤウ</sup>笑と<sup>モヨフ</sup>備此事。速<sup>スミマカ</sup>御子  
ハ竹比塚の翁とあり。そ  
かの草子稿と<sup>ツカ</sup>予が袖とあり。  
入る去ぬと<sup>ツカ</sup>思ひ目とあり。  
袖はさぐはり。はあ

一 每 一 卷 を 得 たり  
未 審 <sup>カシ</sup> と 其 <sup>ソノ</sup> 書 と 異 あり  
左 紙 品 一 一 云

江戸市隈

山東京傳誌



序三

自序

稲 荊 之 天 地 亦 怖 々 毛 絨 之  
如 一 一 疎 亦 乘 吟 亦 々 々 也  
聖 賢 乃  
御 代 乃 々 々 萬 國 之 亦 仁 讓  
安 々 々 亦 亦 乙 々 々 亦 物 々

育一の心は地ふ録りしもの  
十箇に二の心は女の心のふらん  
心の中へこそ結く皆をせらし  
福をいふも夢にまじりて  
屋の縁のこころもさへあやう  
かへりし結帯はたかくあを

序四

阿多の心もひびくし  
稲之ぬりさうとぬり色  
かみさへもさへぬり  
さへにさへに  
幸よ結帯せしと  
さへにさへに

素法説法乃何り初尚乃  
流舟ハ二毒の毒成を  
轉つる云頭おし善提持  
州ふるよ平もり以感喜  
けいん 予も法るを  
きあく母く尉く焼る中を

序五

かきしつ高の中乃下に  
とる本外<sup>カ</sup>成かこけ  
岸まぐ然<sup>カ</sup>しと中  
示納免道<sup>カ</sup>しと海  
く<sup>カ</sup>又冊子とあ  
笑く<sup>カ</sup>頷しと

備ふ所の塚よりぬき  
東ノ子  
明る所のこぼるる  
歌  
つゝめ

田舎談義

家より往の地は戸を西町奈ま川て高  
飾り備あり東ハ利根川の流を過  
くくして物風の帆影種并に移り  
西ハ中河六ノ青なる事流しそ  
るを水田よのく喜地はあま  
ひのまきし是ゆき供と西  
穂し穂咲の各歸ちり  
は秋をとり



しんはきりあき能ふく四石つら  
後いつしてたてた田村の備作地こと  
びら一村の跡に後移しにありて  
金もねと昨日乃三日正月村くも  
いのの跡を押さ家持の車助いふ  
まむ屋住やあめはとるの事とに成りしにまむ屋の跡  
あひふとすけ通三郎のまむ屋はこれよりすまむ屋を  
らららとのまむ屋の跡ひつたるまむ屋と記のまむ屋  
まむ屋とららららららららららららららららららら  
りりり  
まむ屋の跡ひつたるまむ屋と記のまむ屋  
まむ屋とららららららららららららららららららら

ぼくはげんくまむ屋とららららら  
一ふくつくまむ屋とららららら **おら**  
まむ屋の跡ひつたるまむ屋の跡ひつたるまむ屋の跡  
まむ屋の跡ひつたるまむ屋の跡ひつたるまむ屋の跡  
まむ屋の跡ひつたるまむ屋の跡ひつたるまむ屋の跡  
まむ屋の跡ひつたるまむ屋の跡ひつたるまむ屋の跡  
まむ屋の跡ひつたるまむ屋の跡ひつたるまむ屋の跡







るふりまふして天々んでお金のサカ  
又まはぬりぬるふ  
助りうどんハあると窓に金い  
うふくごアアアアうんまわらう  
エ何ぞとてまはぬらあやうでもあ  
亭とては泥ア何付アぞあ  
やうぬ解の焼くがあるさ  
弁早よとて四本本めい

ふ合はれぬくまをばとて出とて人  
大あらうとて昔もいふはに  
おとらる百姓か奴屋腐く  
むうんあう  
何ういふけく去年今  
らひき娘を新田の舎  
く川をいふてとて馬



此下数巻のうへへはしりてあまたと  
 二つくたんとてまのてまのてまの  
 阿や いぬさへいぬさへもや  
 之にまたぬ **百世** サアぬ一はたや  
 天のくさくさうのくさくさい  
**乙** かしんさかきおとあはし  
 改てくさくたんとてまのてまの **乙**  
 こつやアア業しアおつ金とまのてまの

者よりひらの風いまあうとちあう声を  
 たりたけて **三** 砂やあは松のまを白  
 ありてまうまのちかきしやて候をばく  
 へび同坐しけし **二** 是まやアひま  
 多く **三** ころまやアかちへ身とアと教と志  
 うちてたけけるアん世の行際よひ名者  
 ひつり屋に昇部く交りて候をむうん  
 明らうとぬりちちうなる調子てあはは

めつ<sup>な</sup>んま<sup>ん</sup>て<sup>ん</sup>ま<sup>ん</sup>て<sup>ん</sup>て<sup>ん</sup>や<sup>が</sup>し<sup>り</sup>は<sup>い</sup>は  
は<sup>ア</sup>水<sup>ハ</sup>つ<sup>ら</sup>さ<sup>や</sup>ア<sup>ア</sup>さ<sup>ら</sup>ん<sup>は</sup>よ<sup>う</sup>そ<sup>え</sup>  
ふ<sup>な</sup>か<sup>ア</sup>ま<sup>も</sup>め<sup>つ</sup>い<sup>ら</sup>れ<sup>は</sup>い<sup>ら</sup>  
れ<sup>の</sup>よ<sup>ち</sup>ん<sup>ま</sup>ま<sup>の</sup>め<sup>う</sup>い<sup>け</sup>ら<sup>ら</sup>が<sup>。</sup>  
あ<sup>の</sup>ま<sup>も</sup>て<sup>の</sup>や<sup>り</sup>れ<sup>が</sup>ア<sup>と</sup>ま<sup>な</sup>め<sup>ぬ</sup>  
つ<sup>い</sup>ま<sup>も</sup>や<sup>や</sup>よ<sup>う</sup>そ<sup>ん</sup>あ<sup>ま</sup>な<sup>ま</sup>い<sup>。</sup>  
し<sup>や</sup>ま<sup>ま</sup>な<sup>ら</sup>し<sup>き</sup>ほ<sup>も</sup>い<sup>や</sup>ア<sup>が</sup>新<sup>か</sup>。  
新<sup>い</sup>ま<sup>ら</sup>い<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>あ<sup>ま</sup>が<sup>ひ</sup>ら<sup>ん</sup>ん<sup>ん</sup>

ま<sup>ま</sup>の<sup>り</sup>は<sup>め</sup>く  
さ<sup>け</sup>し<sup>や</sup>く<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>さ<sup>つ</sup>金<sup>所</sup>の<sup>ま</sup>め<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>く  
ら<sup>ら</sup>い<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ま<sup>の</sup>馬<sup>ア</sup>ふ<sup>こ</sup>ぬ<sup>め</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>ら</sup>  
溜<sup>ま</sup>へ<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>く<sup>ち</sup>ら<sup>や</sup>ら<sup>う</sup>て<sup>十</sup>粒<sup>を</sup>ま<sup>を</sup>  
ぬ<sup>く</sup>た<sup>小</sup>遊<sup>分</sup>を<sup>ら</sup>る<sup>ま</sup>り<sup>ち</sup>く<sup>ま</sup>て<sup>。</sup>  
羽<sup>土</sup>備<sup>の</sup>馬<sup>市</sup>へ<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>て<sup>ち</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>て<sup>。</sup>  
と<sup>ん</sup>と<sup>ま</sup>の<sup>ら</sup>ら<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>て<sup>よ</sup>ま<sup>ら</sup>る<sup>や</sup>ま<sup>ら</sup>る<sup>。</sup>  
持<sup>ハ</sup>る<sup>遊</sup>割<sup>の</sup>金<sup>ハ</sup>ま<sup>ら</sup>ん<sup>と</sup>う<sup>。</sup>後<sup>仁</sup>の<sup>ハ</sup>ア<sup>。</sup>



又たアキをばくぬきしうくもはくアキ  
 ぼが福ふしていゝ備り成割てアキ  
 濁らぬと。抛子切ばつゝもさるのつ  
 ぶ成りしうく。アキ。所。成。り。し。う。く。せ。い  
 あがり止齒あがり歯のあがりアキもむしう  
 くれ福ふしうかかんにアキもむしう  
 吉吉アキもむしうかかんにアキもむしう  
 けが軍ぶあるしう阿はるを出さしう

高洞子とてさへ川せうろ 奥の度案よ  
 大百姓の小島部とて  
後美々あ小島の後身  
の字海獄とてさへ  
のいふ物よアキもむしうの字とてむしう  
のりり二身入三三交つハキ京もゆくとり  
の風信おまハをアキの  
めーヤ遊留質住度しうアキのろの相さうに  
けし小島の  
いゝ物よアキもむしうの字とてむしう  
のりり二身入三三交つハキ京もゆくとり  
の風信おまハをアキの  
めーヤ遊留質住度しうアキのろの相さうに  
けし小島の  
いゝ物よアキもむしうの字とてむしう  
 小島部とてさへ川せうろ 奥の度案よ  
 大百姓の小島部とて  
 大島子ア清沢部とてさへ川せうろ  
 大島子ア清沢部とてさへ川せうろ

**小** 此のまもめが。はくくしほきてまてく  
らくく。まもめが。はくくしほきてまてく  
りく。まもめが。はくくしほきてまてく  
えんとまめが。はくくしほきてまてく  
て。まもめが。はくくしほきてまてく  
せま。まもめが。はくくしほきてまてく  
**小** 此のまもめが。はくくしほきてまてく  
く。まもめが。はくくしほきてまてく

**ア** 此のまもめが。はくくしほきてまてく  
買。まもめが。はくくしほきてまてく  
り。まもめが。はくくしほきてまてく  
ま。まもめが。はくくしほきてまてく  
ま。まもめが。はくくしほきてまてく  
ま。まもめが。はくくしほきてまてく  
ま。まもめが。はくくしほきてまてく



しんがみ 松 さらさら好む。まじりて  
ていしき身が。ていしき身が。ていしき身が。  
うんちや。ゆらゆら。遊あそぶ。うんちや。うんちや。  
うんちや。うんちや。うんちや。うんちや。  
うんちや。うんちや。うんちや。うんちや。  
うんちや。うんちや。うんちや。うんちや。  
うんちや。うんちや。うんちや。うんちや。  
うんちや。うんちや。うんちや。うんちや。  
うんちや。うんちや。うんちや。うんちや。  
うんちや。うんちや。うんちや。うんちや。  
うんちや。うんちや。うんちや。うんちや。

舊田村の法福寺とていふ。村一寺法

旧地よりて。なまは。弘法大師の御作の河原  
池あり。此秋大満作あり。本堂修  
葺の了。近御より高き法義僧。佛  
相あり。天鳳和尚と稱す。彼年中  
夜路法あり。道々をまはりて  
及ぶ。方ま。此里が。同の。老の。男女。群  
集る。此の。客殿。松板を。ゆき。法  
と。村内の。檀方。世作。後。庫裡。流

客のついでに舟のりつれと。本意を乃  
るけいしはあふり。佛の徳の枚するも。  
伊世町。小畑町。乃入。舟より。も。あつた。夫  
れけ。夜は。多。傍。あ。く。本。意。は。新。い。い。  
も。あ。つた。の。を。と。あ。つた。を。あ。つた。の。  
白。法。と。ゆ。う。に。つ。き。双。徳。二。徳。一。徳。  
る。れ。を。徳。と。交。く。駛。れ。る。を。仁。乳。  
用。の。あ。つた。の。神。風。の。こ。も。つた。の。徳。を。

都。上。つ。て。い。ま。は。り。近。ま。は。あ。る。に。た。あ。  
ア。と。して。村。中。の。小。道。も。せ。り。く。大。き。い。は。よ。  
あ。ら。お。い。し。は。あ。る。耕。作。ま。ひ。ひ。て。あ。の。  
あ。つた。と。あ。つた。の。う。ら。ん。や。あ。つた。を。あ。つた。  
う。ら。ん。の。こ。も。つ。て。平。法。の。音。の。あ。つた。の。  
の。あ。つた。の。あ。つた。の。あ。つた。の。あ。つた。の。  
の。あ。つた。の。あ。つた。の。あ。つた。の。あ。つた。の。  
の。あ。つた。の。あ。つた。の。あ。つた。の。あ。つた。の。  
の。あ。つた。の。あ。つた。の。あ。つた。の。あ。つた。の。

坊のあつたの  
遠入る門の内の板垣の長十七八の

増らぬちりりのゆらぐに暮れ暮れの子の幸に上田の後の三  
りくとまのちりにとまのちりりの子の幸に上田の後の三  
りくとまのちりにとまのちりりの子の幸に上田の後の三  
りくとまのちりにとまのちりりの子の幸に上田の後の三  
りくとまのちりにとまのちりりの子の幸に上田の後の三  
りくとまのちりにとまのちりりの子の幸に上田の後の三  
りくとまのちりにとまのちりりの子の幸に上田の後の三  
りくとまのちりにとまのちりりの子の幸に上田の後の三  
りくとまのちりにとまのちりりの子の幸に上田の後の三  
りくとまのちりにとまのちりりの子の幸に上田の後の三

とらて持ちあどんの書海(が)ちりり  
して。おれが。つ。も。か。だ。も。養。さ。ひ。  
さ。う。し。い。ん。ち。ぶ。あ。ひ。ま。い。い。ま。  
も。あ。さ。べ。い。よ。う。ご。ご。い。ぬ。う。も。用。も。さ。や。へ。  
ぞ。ん。が。り。い。ま。び。え。ん。で。い。よ。か。ら。せん。ご。く  
の。ち。の。り。り。い。ん。ち。ぶ。あ。ひ。ま。い。い。ま。  
り。くとまのちりにとまのちりりの子の幸に上田の後の三  
りくとまのちりにとまのちりりの子の幸に上田の後の三







申渡のされまげくもさしつかへ  
とほ声てのたをう 図 せうやアから  
も極眼をうんてアせむゆまの目せ  
も極よけはらや腰おつらうせうく  
いろくろちをねう衛向の伯樂をよみ  
せうく人間の極らやあせうくせうく  
きう極へ死て牛ふちうく療治して  
かりぬくとせれうせうくせうくのせうく

ていふうくせうくせうくせうく  
ちまよく新報をうくはもあは  
外をかてぐされはせうくせうくの  
せうくせうくせうく。極の極せうく  
せうく。 圖 せうくせうく。せ  
日布で穿ててめうく。食ちうく  
ら。せうめせうくだくせうく。せうく  
ちふせうくせうく。せうくせうく。

あぢきいゝまき終きーいゝびし  
 くらゝいゝやんがしゝいゝ。本堂より  
 一のりて。世に事やうと。  
。は家のまことなきを  
 のこつれく  
 世にわく世の世を認く。いゝあつて  
 あぢきいゝひく。いゝ佛へ魚油あぢき  
 いげらまねよ。系法コにあくゆりあぢき  
 一よ。子供があぢき。月ういゝいゝ。らゝ  
 一しゝあぢき。あぢき。さあさうと  
押合をー合  
 くらゝあの中ら

女よまう男とりみ。こゝろちうてつゆ  
さあさうさうがれれあまきすえん  
 東あくとりまのたごま。又あぢきの  
いゝあぢきのあぢきうそまのあぢき  
 又あぢきをいゝ。あぢき。あぢき。あぢき  
 と十ラ半。うらるじ。天風盤。いゝ志に  
 そまの。あぢき。あぢき。あぢき。あぢき  
 縁をみく。ご念。南をいゝ。  
系法はま  
 十まのあぢき  
和南 さあさう。あぢき。あぢき。あぢき。あぢき  
 ぐいゝあぢきを。あぢき。あぢき。あぢき。あぢき



多目玉洞。多目之便。及老盛。教一  
う。法。所。多。夫。の。ふ。ち。た。こ。う。ほ。び。及。亦。の。法。  
所。更。う。提。力。家。内。女。入。し。け。う。ち。延。人。今。あ  
む。何。く。く。 同音十 私 ねんま さそん や 量 の内 ハ  
そ。ぞ。も。年。よ。う。が。お。い。か。く。あ。ん。が。さ。の。の  
屋。一。り。今。と。父。母。恩。重。隆。の。富。壽。九。が。身  
弱。く。乃。亦。成。流。ト。多。が。さ。か。く。あ。は。後  
儀。ハ。美。い。花。が。押。い。か。く。ち。う。と。又。ま。り

い。の。も。さ。ち。ほ。し。ち。や。一。耳。よ。い。金。り。り。り  
ぬ。く。タ。ア。り。く。款。少。ら。後。炮。物。流。し  
い。よ。さ。り。ろ。い。た。お。い。が。娘。ト。多。思。ひ。か。  
ま。い。び。か。く。ま。う。り。や。一。ア。及。流。家。も。さ  
ま。い。ど。や。日。教。も。あ。か。く。ほ。く。と。お。と  
し。ら。く。さ。い。ほ。ま。説。す。や。く。ま。き。で。ま。い。流  
村。々。亦。今。の。の。娘。子。去。母。の。ち。り。何  
死。や。ら。ぬ。き。の。さ。を。凡。備。文。と。あ。げ



かゝりよしと申すに神を教へ佛と  
いふにせり。此の事も定まらばい  
のらだん  
ふらふらよしと申すにせり。此の事  
去年六月廿六日。此の事  
く。此の事。此の事。此の事。此の事。  
うらやう。此の事。此の事。此の事。此の事。  
うらやう。此の事。此の事。此の事。此の事。  
うらやう。此の事。此の事。此の事。此の事。

うらやう。此の事。此の事。此の事。此の事。  
大徳。此の事。此の事。此の事。此の事。  
佛と申すにせり。此の事。此の事。此の事。此の事。  
同音。此の事。此の事。此の事。此の事。  
死。此の事。此の事。此の事。此の事。

もしのむいこいもしづら歌がらと  
すもぬこてははよアと高をさるる  
ありし能る持をさるるは家の  
まづしにまゝさるる海ほと  
のしづらよ海ほつのもす  
しづらよは手はさるるハ小食  
まゝさるるはさるるハ小食  
せんまががさるるハ小食  
せんまががさるるハ小食

にようてはさるるハ小食  
いさあんとすのよあれが  
あてさるるハ小食  
邪ハさるるハ小食  
さるるハ小食  
あてさるるハ小食  
いさあんとすのよあれが  
あてさるるハ小食  
邪ハさるるハ小食  
さるるハ小食  
あてさるるハ小食  
いさあんとすのよあれが  
あてさるるハ小食  
邪ハさるるハ小食  
さるるハ小食  
あてさるるハ小食

はのりほきいこしのでおきかもつておき  
ハミホとハト堂へ背負ておきらつものゆ  
まよしきさう。おきじが村中しりつて。送るあま  
おんそこおんこたしりきひのハミホこ  
んまこさんだけりて。いよひ山田よおし  
徳を授けらる。隣村しりてかけ。ト堂  
のハミホとめおんこたしりや。他まかか  
乃ハミホとや。おきじが。かくあまらるて

おやちいのかかをせぬらよてまらうこ  
りハハミホも授けらる。おきじが。いよひよ  
おんこたしりおきじが。おきじが。おきじが  
らる。おきじが。おきじが。おきじが。おきじが  
おきじが。おきじが。おきじが。おきじが。おきじが  
かくあまら。けしりく。おきじが。おきじが。おきじが  
まんま。おきじが。おきじが。おきじが。おきじが





とふんさうせくやうにたつらふてくれえ  
とふんさうせくやうにたつらふてくれえ  
くさうせくやうにたつらふてくれえ  
かたさうせくやうにたつらふてくれえ  
とふんさうせくやうにたつらふてくれえ  
からよさうせくやうにたつらふてくれえ  
トウは足依後りんげとてさる  
ひまやとてさるさうせくやうにたつらふてくれえ  
てやうはむけり男のハ、後の大ぎんぶハ

素の  
たけ

とふんさうせくやうにたつらふてくれえ  
よさうせくやうにたつらふてくれえ  
志乃めく、法那さうせくやうにたつらふてくれえ  
じあ、  
そのゆゑに、  
かきわあ、  
十、  
う、

同、  
念、

△

和、



夜もようがぐおろ又いかにけり  
ぬらのふいあいのぞんよ出まをり  
まうとせうとまらまれとまの  
十福んやれいぞん種がぢんく  
双福がぶんくく

田舎談義 大尾

附録

みまのちやでんま  
いまいらまれほくく  
おれなまちでんま  
のあげりまの  
田うらけらまの  
およめにまきれく  
こつちがくし

まもるるをひきつるに  
くもほろぐくくくく  
のきくひきひきひき  
かひひひひひひひひ  
乃ちひひひひひひひひ  
たぬひひひひひひひひ  
ふひひひひひひひひひ  
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ  
げひひひひひひひひひ  
かひひひひひひひひひ  
あひひひひひひひひひ  
まひひひひひひひひひ  
まひひひひひひひひひ  
まひひひひひひひひひ  
まひひひひひひひひひ  
まひひひひひひひひひ

おはようございます

おは

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはよう

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

おはようございます

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a list of notes, enclosed in a rectangular border. The text is written vertically from right to left. It consists of approximately 10 lines of fluid, connected characters.

Handwritten text in a cursive script, likely a musical score or a list of notes, enclosed in a rectangular border. The text is written vertically from right to left. It consists of approximately 10 lines of fluid, connected characters, similar in style to the text on the opposite page.

おろくふらふらふら  
おろくふらふらふら  
おろくふらふらふら  
おろくふらふらふら

謝源終

跋  
聞クミをミいハ獨ドク笑シヤウ也ヤまマはハらラひヒ。  
物モノみミいハきキきキ屋ヤふフかカらラ。  
歌カふフ四ヨ方ヘ流リウるル子シのノ笑シヤウひヒ。  
淋リンのノあアがガ本ホンかカたタふフ。  
屋ヤいハしシ書シヨ肆シみミ授カウケるル。



15428

櫻ハナよふくハナ半ハナ一ハナ。寒カゼんハナ 絞ヒキ  
ハナ乃ハナ年ハナ唐カ肉ニクのハナ  
ハナ母ハナをハナさハナるハナ也ハナ

付ツりリぬヌりリ



